

伊良湖岬で確認されたホソウメマツオオアリ

島田知彦*・亀山 剛**

Camponotus bishamon Terayama, 1999 (Hymenoptera, Formicidae) found around the Irako Cape, Aichi Prefecture, Japan

Tomohiko Shimada* and Tsuyoshi Kameyama**

はじめに

ホソウメマツオオアリ *Camponotus bishamon* Terayama, 1999 は、オオアリ属ウメマツオオアリ亜属 (*Myrmamblys*) に属する中型の樹上性のアリで、南西諸島では普通に見ることのできる種である。また本種は九州以北においても宮崎県、鹿児島県、高知県、三重県 (寺山, 2004)、愛知県 (豊田市自然環境基礎調査会, 2005)、岡山県 (倉敷昆虫同好会, 2012) など、各地から報告されているが、その例数は多いとは言えず、関東から九州にかけての多くの地域では本種と近縁なウメマツオオアリ *C. vitiosus* Smith, 1874 の方が普通に見られる。

今回、著者らは愛知県田原市の伊良湖岬周辺の数地点においてホソウメマツオオアリの分布を確認した。愛知県において本種は、豊田市樹木町の樹木神社から報告されている (豊田市自然環境基礎調査会, 2005) が、それ以外の報告はなく、渥美半島からの初記録となるため報告する。

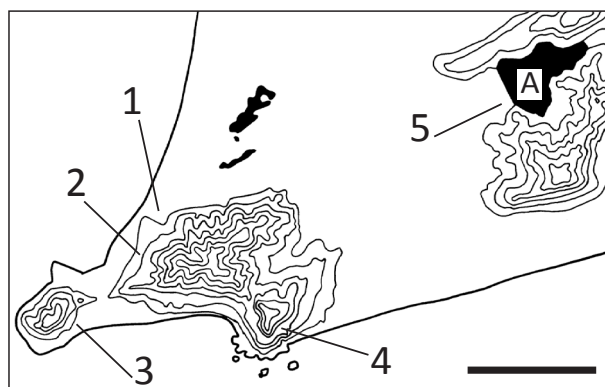
材料と方法

2012年8月19日から22日にかけて、伊良湖岬周辺の5地点 (愛知県田原市; 第1表, 第1図) において、灌木上を歩行しているアリを見つけ、吸虫管を用いて捕獲した。捕獲したアリはすぐに70%エタノールに

浸漬し、液浸標本とした。

結果と考察

調査を行った5地点からは合計36個体のウメマツオオアリ亜属のアリが捕獲された。そのうち、11個体 (地点1の10個体と地点5の1個体) に関しては、前伸腹節背縁に明瞭なへこみがある点や、腹柄節が逆U字型で前後に対称である点などからウメマツオオアリと同定されたが、残りの25個体 (地点1の1個体、地点2の19個体、地点3の2個体、地点4の3個体) に関しては、前伸腹節背縁に明瞭なへこみがない点や、腹柄節が前後に非対称で前縁の上端が後縁の上端よりも低い位置にある点などからホソウメマツオオアリと



第1図. 採集地点付近の地図 (等高線は20 m 間隔)。番号は第1表の地点名に対応する。Aは初立ダム。横棒は1 km。

* 愛知教育大学自然科学系理科教講座. Department of Earth Sciences, Aichi University of Education, Kariya, Aichi 448-8542, Japan.

** 復建調査設計株式会社環境部生物環境課. Fukken Chousa Sekkei, 2-10-11 Hikari, Higashi, Hiroshima 732-0052, Japan.

原稿受付 2012年10月30日. Manuscript received Oct. 30, 2012.

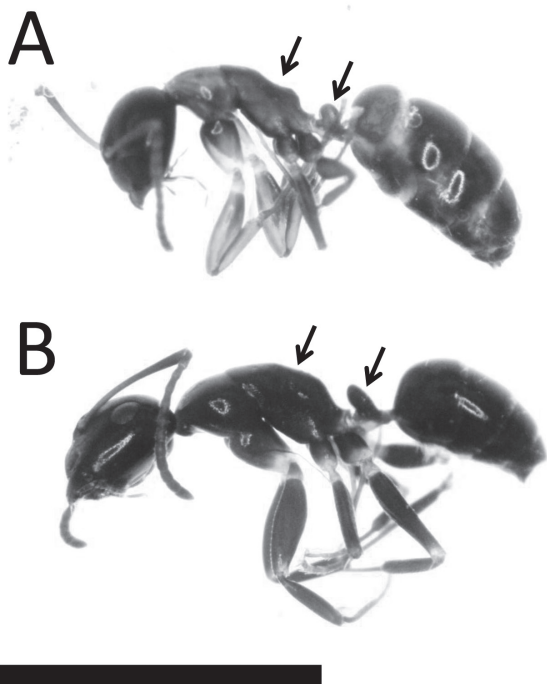
原稿受理 2012年12月9日. Manuscript accepted Dec. 9, 2012.

キーワード: 愛知県, 田原市, 伊良湖岬, ホソウメマツオオアリ.

Key words: Aichi Prefecture, Tahara City, Irako Cape, *Camponotus bishamon*.

第1表. 採集地点の位置と経緯度.

地点名	位 置	経 緯 度
地 点 1	伊良湖町宮下 (愛知教育大学臨海実習施設)	北緯 34° 35' 17" 東経 137° 1' 39"
地 点 2	伊良湖町宮下	北緯 34° 35' 2" 東経 137° 1' 28"
地 点 3	伊良湖町古山	北緯 34° 34' 49" 東経 137° 1' 13"
地 点 4	日出町骨山	北緯 34° 34' 45" 東経 137° 2' 12"
地 点 5	伊良湖町瓦場 (初立ダム)	北緯 34° 35' 46" 東経 137° 3' 21"



第2図. 採集した標本の側面観.

A, ウメマツオオアリ; B, ホソウメマツオオアリ.
矢印は前伸腹節背面と腹柄節を示す. 横棒は 3 mm.

同定された (第2図).

ホソウメマツオオアリが採集された地点は, 渥美半島のほぼ先端部 (地点3) から 1.5 km ほどの範囲 (地点1, 4) に及び, 本種が伊良湖岬周辺である程度の範囲において普通種として分布していることは確実である. 一方で, 地点1, 5においては本種と近縁なウメマツオオアリが見られ, 特に地点1においては, 両種の共存が確認された. 今回発見されたホソウメマツオオアリが元々伊良湖に生息していたものか否かは不明だが, 南西諸島から移入した国内外来個体群である可能性もあり, 今後の動向が注目される.

[標本]

本研究で用いた標本は, 豊橋市自然史博物館に寄贈した. 以下地点ごとに, 種名, 個体数, 採集日, 採集者, 豊橋市自然史博物館標本登録番号の順に記す. 地点名は第1表, 第1図の地点名と対応している.

地点1.

ホソウメマツオオアリ, 1ex., 19-VIII-2012, 島田知彦, (TMNH-I-26891).

ウメマツオオアリ, 10exs., 19-VIII-2012, 島田知彦, (TMNH-I-26916 ~ 26925).

地点2.

ホソウメマツオオアリ, 19exs., 20-VIII-2012, 島田知彦, (TMNH-I-26892 ~ 26910).

地点3.

ホソウメマツオオアリ, 2exs., 21-VIII-2012, 島田知彦, (TMNH-I-26911 ~ 26912).

地点4.

ホソウメマツオオアリ, 3exs., 21-VIII-2012, 島田知彦, (TMNH-I-26913 ~ 26915).

地点5.

ウメマツオオアリ, 1ex., 21-VIII-2012, 島田知彦, (TMNH-I-26926).

謝 辞

文献情報を御提供いただいた豊橋市自然史博物館の長谷川道明氏, 写真撮影に御協力いただいた加藤淳太郎氏, 現地調査に御協力いただいた愛知教育大学の芹沢俊介氏, 澤 正実氏, 渡邊幹男氏, 常木静河氏に深く御礼申し上げます.

引用文献

- 倉敷昆虫同好会, 2012. 重井薬用植物園昆虫調査報告. すずむし, 147: 1-4.
- 寺山 守, 2004. 日本産有剣膜翅類目録. *Memoirs of the Myrmecological Society of Japan*, 2: 1-123.
- 豊田市自然環境基礎調査会, 2005. 豊田市自然環境基礎調査. 豊田市環境部環境政策課, 豊田市, 453p.